



伝えよう！福祉用具のちからを

## 第1回福祉用具専門相談員研究大会開催

**初**夏の東京有楽町東京国際フォーラム。涼やかな緑陰に人が集い、行き交う。第1回福祉用具専門相談員研究大会はDホールをメイン会場に、全国から多くの福祉用具専門相談員および福祉用具関連事業者が集って開催された。

地域包括ケアを推進する上ですでに大きな役割を果たしている「福祉用具専門相談員」だが、さらに自らのスキルアップを図り、福祉用具業界全体のボトルアップを図ることを意図して研究大会が開催された。実行委員長の国際医療福祉大学大学院東島弘子教授は「福祉用具のちからは、いつ、どこでも整備が可能という意味で、地域包括ケアを支えるうえで重要」と言い、そのためには利用者に合わせて機種を選定する福祉用具専門相談員の力が欠かせない。今大会は福祉用具専門相談員による成果発表を通じてお互いに学び合うとともに、福祉用具が持つポテンシャルの高さをアピールする機会ともなった。

大会は厚生労働省老健局長大島一博氏、大会

長である全国福祉用具専門相談員協会理事長岩元文雄氏の挨拶に続いて、医療介護福祉政策研究フォーラム理事長の中村秀一氏による記念講演で幕を開けた。日本の福祉政策を振り返り、テクノロジーの導入など福祉用具業界への期待が語られる。続いて15事業所がそれぞれの成果を発表。車椅子を見直したことが利用者等の笑顔につながった事例、セラピストによる地域支援活動報告、認知症の「徘徊」見守りケアの実践など、多彩な活動から福祉用具専門相談員の幅広い支援の成果を見ることができた。ロビーには発表した各事業所の成果がパネル展示されており、活発な交流の場となっている。

大会は約6時間に渡って行われ、国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部・部長の東祐二氏の教育講演で幕を閉じたが、来年も開催を予定している。「地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割」をサブテーマに開催された本大会だが、福祉用具への理解がさらに深まることが期待される。

